



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO（国際連合食糧農業機関）日本事務所  
2010年9月14日

LOJAPR10/25-No. 174

## プレスリリース

慢性的飢餓人口は9億2500万人  
—改善が見られるものの、世界の飢餓状況は依然「受入れ難い」水準である—

2010年9月14日 ローマー国連食糧農業機関（FAO）と国連世界食糧計画（WFP）は、本日、世界飢餓人口は最近の改善で10億人を下回ったものの、依然として受入れ難い高い水準に留まっていると発表した。

今年、慢性的飢餓に苦しむ人数の新たな推定は9億2500万人となるが、この数値は2009年の10億2300万人と比べると9800万人少ない。

「しかしながら、子供が6秒に1人飢えで亡くなっていることを考えると、飢餓が世界の最も深刻なスキャンダル、最大の悲劇であることには変りはない」とFAO事務局長ジャック・ディウフは述べた。「これは全く受入れ難いことである。」

### MDGの達成は困難

また、世界で高い飢餓水準が続いている状況は、「2015年迄に世界の飢餓人口割合を半減するというミレニアム開発目標第一及び世界飢餓人口数値を約半数の約4億人にするという1996年世界食料サミットの目標という以前より国際社会が合意している飢餓削減目標の達成を深刻に脅かすものである」、とディウフ事務局長は述べた。

「我々は、双方の目標達成コースから外れている」と彼は付加え、もし、最近の食料価格上昇がこのまま続けば、世界の飢餓人口を減らす努力は一層妨げられることになる」と指摘した。

「国家及び世界の強力且つ迅速な行動が世界の飢餓人口増加に歯止めをかけることに効果的であることは証明されている。」と、WFP事務局長ジョセット・シーラン氏は述べた。「しかし、安閑としている場合ではない。我々は、安定を確かなものとし、生命と尊厳を守る為、飢餓を減らし続けなければならない。」

## 主要報告書

新たな飢餓人口推定値は、毎年１０月にＦＡＯとＷＦＰが共同で発表する主要報告書である「世界の食料不安の現状」に記載されている。この数値は９月２０－２２日ニューヨークのサミット会合に先立って発表され、国連ミレニアム開発目標第一の貧困と飢餓の撲滅達成に向けて進展を促すことを求めている。

５月には、ディウフ事務局長は、飢餓撲滅に向け世界指導者の具体的な行動を促す為「１０億人飢餓キャンペーン」を打ち出した。既に５０万人以上がオンライン上で署名を行い、政治家へ飢餓削減を最優先課題とするように呼び掛けており、本年末迄には１００万人の署名が集まる予定である。

IFADの大村由紀子副総裁は、「世界の飢餓は、数の問題だけではない。飢餓に苦しめるのは、人々である。子供を育て、子供の生活を良くしようと懸命に努力している貧しい男女、自らのため未来を築こうとしている若者である。その過半が、実は、開発途上国の農村地域に住んでいるということは皮肉である。実際、１日１ドル未満で暮らす世界の極めて貧しい人々の７０％は、農村地域で暮らしている。１０億人にもものぼる。そして、５人に４人は、ある程度は農民である。」

## 経済成長、価格の下落

２０１０年の飢餓人口減少は、主に本年見込まれる更なる経済成長一特に開発途上国における一、そして２００８年以降の食料価格の下落によりもたらされた。もし、最近の食料価格上昇が続けば、飢餓の更なる減少への障害となると思われる。

２０００年に国連で厳かに合意された８つのミレニアム開発目標の中で、開発目標第一（MDG 1）は、２０１５年迄に飢餓人口割合を２０％から１０％に半減すると公約した。しかしながら、残り５年となった現在、割合は未だ１６％である。

これに先立ち、１９９６年世界食料サミットでは、１９９０年時の飢餓人口約８億人を、２０１５年迄に半分の約４億人にすると目標が掲げられた。この達成の為には、今後５年間で５億人以上の飢餓人口削減が必要であることを意味する。

## 構造的問題

高度成長や低価格の時期においても栄養不足人口が増え続けているという歴史的事実は、飢えが構造的な問題であることを示しているとＦＡＯは述べた。従って、経済成長は不可欠要素ではあるが、それだけでは飢餓を容認出来る期限内で撲滅するには十分ではないとＦＡＯは付加えた。しかし、「成功事例は、アフリカ、アジア、ラテンアメリカに存在する。」とディウフ事務局長は指摘した。これらの経験は、更に推進され、また、繰り返される必要がある。

世界規模では、２０１０年飢餓人口数値は２００９年の水準から９．６％減少した。この減少は殆どアジアに集中しており、飢餓人口が今年８０００万人少なく推定された。サブ・サハラアフリカにおいては、飢餓人口の減少は推定約１２００万人とはるかに少なく、３人に１人が栄養不足である状況が続いている。

## 主要結果

報告のその他主要結果は以下含む：

－世界の 2/3 の栄養不足人口は 7 つの国（バングラデシュ、中国、コンゴ民主共和国、エチオピア、インド、インドネシア、パキスタン）に集中している。

－最も栄養不足人口が多いのは、引き続きアジア・太平洋地域で、5 億 7 8 0 0 万人である。

－栄養不足人口割合では、サブ・サハラアフリカが依然として最も高く 2 0 1 0 年で 3 0 %、2 億 3 9 0 0 万人である。

－国レベルでの改善状況はまちまちである。2 0 0 5－2 0 0 7 年（最も最近で完全なデータが揃っている時期）において、サブ・サハラアフリカのコンゴ、ガーナ、マリ、ナイジェリアは、MDG 1 を既に達成しており、エチオピアとその他諸国も達成に近付いている。しかしながら、コンゴ民主共和国では栄養不足人口割合が 6 9 % に増加した。

－アジアでは、ミャンマー、ベトナムが既に MDG 1 を達成しており、中国が達成に近付きつつある。

－ラテンアメリカ・カリブ海諸国では、ガイアナ、ジャマイカ、ニカラグアが既に MDG 1 を達成し、ブラジルが達成間近である。

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/45210/icode/>